

会員だより

四天王寺  
参拝・散策の感想

令和 5 年があげ、VG 槻輪の 1 月の「わがまち紹介」活動で四天王寺へ出かけました。

19 日は、冬の青空が広がって、雲一つない天気にも恵まれました。今年も良い活動が出来そうです。わがまち紹介「四天王寺」参拝・散策ガイドブックは、事前に配布され、広大な四天王寺境内、6 世紀に聖徳太子によって創建された歴史ある寺院、神仏・諸宗派にこだわらない「和宗」の総本山、1900 年以前にこの上町台地に立ち我が国を見守り続けた大寺院で官寺です。

現在も四天王寺は聖徳太子の「四箇院制度」を引き継ぎ、寺院学園・病院・福祉事業を継承されていることをガイドブックで知りました。

わがまち紹介 四天王寺「参拝・散策」ガイドブック  
ポランティオ グループ 編集 VG 槻輪

ガイドブック表紙

天王子駅から谷町筋（熊野街道）の歩道を南に進み、石の鳥居から入りました。



極楽門と石ノ鳥居

朝日に照らされた、お寺の色あざやかな、朱や緑や白や茶の極楽門や五重塔が目飛び込んできました。

そして、中門（仁王門）や金堂の屋根が鋳屋根という、上方の勾配を強くし、下方の勾配を緩くした形状の屋根で、初めて見た気がします。



講堂・金堂・五重塔

五重の塔は閉まっているが、その前にある金堂で、11 時に念仏、読経、礼拝があり、槻輪の

仲間もお清めをして頂くことが出来ました。とてもラッキーなことだ、「今年も 1 年がんばるぞ！」という勇気がわきました。

その金堂や講堂には、お釈迦様にまつわる壁画があつて薄暗い中にあつても色鮮やかでした。

金堂では、お堂に入ると正面の巨大な救世観音像に迎えられる、その周りに釈迦の誕生からの物語がわかり易く描かれています。

講堂では、御本尊の阿弥陀如来坐像は、高さ約 6 m あり「丈六仏」とも呼ばれ穏やかな顔でした。この四天王寺のお寺を、飛鳥時代に、これだけの大きなお堂や高い塔をどうやって、どれだけの人々の汗と涙で建てられたのでしようか。

驚きと不思議な思いにとられました。しかも、大火・地震・台風・戦火にも合い、何度復元を繰り返したことでしよう。

大阪の金剛組（宮大工）の初代当主は、百濟から招かれたことを知りました。

庭園は、梅・桜・紅葉と四季折々色づくことも想像出来ました。昔の人々は、偉かった。貴重なことが体験できた一日でした。

記：宝角弘枝

編集部メモ

※四箇院の制

聖徳太子は、四天王寺に、仏教精神を具現化する為に「四箇院の制」を設けられました。四箇院とは、敬田院、施薬院、療病院、悲田院

の 4 つの事で、中でも敬田院は、一切衆生が帰依

の境地に到るところ、つまり仏法修行の道場となる場所を意味します。

施薬院は病氣の人に薬を施す場所を意味します。療病院は、病氣の人を治療し癒す場所、悲田院は、生活に困窮したり、身寄りのない人を収容する場所として設けられました。これらの精神は現在において、敬田院は「宗教法人 和宗総本山四天王寺」に、施薬院、療病院、悲田院は「社会福祉法人 四天王寺福祉事業団」に受け継がれています。

※四天王寺の伽藍など 四天王寺は、たび重なる戦火や災害に見舞われ、多くが焼失しましたが、現在の建物は創建当時（飛鳥時代）の様式を忠実に再現しており、古代

の建築様式が今に残るのは貴重といえます。境内には四天王寺式伽藍のほかに、聖徳太子の御霊を崇める聖霊院（太子殿）など 500 点あまりの国宝・重要文化財を所蔵する宝物館もあります。

日本庭園の「極楽浄土」の庭にたたずむと、都会にありながら喧騒とは無縁の世界が広がる。新

西国三十三観音霊場第一番など多くの札所にもなっています。

※官寺とは 国家の監督を受ける代わりに国家より経済的保障を与えられた寺院です。寺格の一つです。

会員の皆様へ

2023 年度総会の事前連絡と活動計画について（お願い）

4 月から新年度に入ります。

1. 2023 年度総会・親睦会の予定について

1) 総会

- (1)開催予定日：2023 年 4 月 13 日(木)
- (2)開催場所：高槻市立総合市民交流センター会議室

2) 親睦会

- (1)開催予定日：2023 年 4 月 13 日(木)
- (2)開催場所：グリーンプラザ 1 号館 5 階の「つきの井」

2. 活動提案について

下記内容の提案を 2 月 15 日までをお願いします。

- 1) したい活動の提案をお願いします
- 2) 各月の「わがまち紹介」活動の提案紹介したい「まち」・「会社や神社・仏閣」などの具体的提案をお願いします。

※ただの「まち歩き」ではありません。

3. 会報及びホームページの原稿提出を会員各位にお願いします。

※題材は自由、各人 1 件/年以上お願い。